

を見直すこと等であった。

2. 保健医療行政の動向

1) 新型コロナウイルス感染症 (2020年9月30日時点)

(1) 発生と国内の状況

2019(令和元)年12月31日、中国政府当局から世界保健機関(WHO)中国事務所に、湖北省武漢市で検出された原因不明の肺炎の事例が通知された。この肺炎の患者について、翌年1月に新型コロナウイルスが発見され、中国当局によってこの疾患の原因であると判断された。

2020年1月30日、WHOは新型コロナウイルス感染症の世界的流行に対し、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態(PHEIC)」を宣言した。2月11日には、疾患名を「COVID-19」と命名し、3月11日には、新型コロナウイルス感染症をパンデミック(世界的な大流行)とみなすことができる旨を表明した。

わが国では、2020年1月に武漢市から帰国した肺炎患者について陽性が判明したのが1例目である。その後、感染者数は5月から6月にかけて一時的に落ち着きを見せたが、7月から再び増加に転じ、9月30日0時現在、国内の新型コロナウイルス感染者(PCR検査陽性者)の総数は83,010人である(うち退院者または療養解除となった者は

76,025人、死亡者は1,564人)(図2)。

感染者数を都道府県別にみると、9月29日24時現在で、多い順に東京都25,547人、大阪府10,534人、神奈川県6,819人、愛知県5,309人、福岡県5,028人となっている。

なお、2月に横浜港に寄港したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」の乗客・乗員3,711人について海上で検疫を実施し、感染者が712名あったが、これについては、WHOの各国の発生状況の報告において、日本国内の発生件数とは別個の件数として取り扱われている。

(2) 海外における発生の状況

2020年9月30日15時現在の世界の感染者数(新型コロナウイルス関連の肺炎と診断されている者の数)は33,515,038人、死亡者数は1,006,189人である。感染者数の推移をみると、4月2日に100万人を、6月29日に1000万人を、8月11日に2000万人を、9月18日に3000万人を超えた。

最も感染者が多い国はアメリカで6,674,411人(死亡者197,633人)、次いでインド5,118,253人(死亡者83,198人)、ブラジル4,455,386人(死亡者134,935人)、ロシア1,081,152人(死亡者18,996人)、ペルー744,400人(死亡者31,051人)、コロンビア743,945人(死亡者23,665人)となっている。なお、中国は85,255人(死亡者4,634人)である(厚生労働省ホームページ)。

当初は中国を中心とした東アジア地域での感染者が多く、1月31日9時現在、世界の感染者は9,800人、死亡者は213人(うち中国の感染者9,692人、死亡者213人)であった(新型コロナウイルス感染症対策本部資料)。

2月後半以降は、中国の感染者数の増加のスピードは低下し、3月中は80,000人台と落ち着きをみせるようになったが、代わって欧州各国など世界的に感染者数と死亡者数の急激な拡大がみられた。4月以降はアメリカ、ロシアに加え、ブラジル、インド、南アフリカ等の開発途上国における感染者数が大きく伸びている。

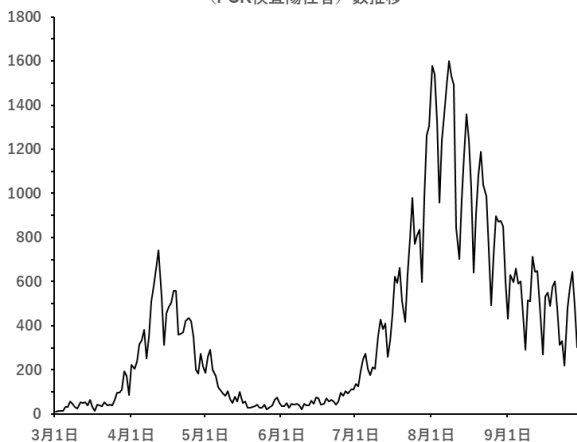
(3) 政府の対策

1) 4月初めまでの政府の対策等

① 新型コロナウイルス感染症対策本部

政府は、2020(令和2)年1月30日に新型コロ

図2 新型コロナウイルス感染症の一日当たり国内感染者
(PCR検査陽性者)数推移



資料 厚生労働省ホームページ「新型コロナウイルス感染症の現在の状況について」
「新型コロナウイルス感染症の現在の状況と厚生労働省の対応について」
注 新規陽性者数は、各自治体がプレスリリースしている個別の事例数(再陽性例を含む)を積み上げて算出したものである。